

## JICA日系研修員ダニラさんの研修修了インタビュー

### 日系研修「黒毛和種牛など高品質肉牛の管理と繁殖のための新たなビジョンの習得」について

1月28日、山口大学でのJICA日系研修員プログラムを終了される、ブラジルからの留学生、ダニラ フジサキさんに、約9ヶ月間の研修について、ダニラさんの指導教官の農学部角川博哉准教授を交え、国際戦略室黄教授がお話を伺いました。



#### ダニラ フジサキさん プロフィール

氏 名: Ms. Danila Fujisaki

国 籍: ブラジル

サンパウロ州出身

研修期間: 平成21年5月18日～平成22年2月4日

所 属: 農学部獣医学科

指導教官: 角川博哉 准教授

研修内容: 非常に高品質な牛肉を生産する事で世界的にも有名な黒毛和種牛、さらに黒毛和種牛の祖先である見島牛や他系統の和牛である無角和種などの他県には存在しない様々な和牛を有し、特異な肉牛の生産地である山口県の特徴を発揮した研修。最新の繁殖学や栄養学や生理学などの知見に基づき、高品質牛肉の生産と同時に、繁殖管理も円滑に進めるために、問題要因の抽出・解析能力を身に付け、新しい効果的な飼養管理や繁殖管理等の基盤の習得をめざす。

趣味: 水泳、旅行

#### 研修の目的



左より黄教授、ダニラさん、角川准教授

<黄教授> 今回ダニラさんは、JICAの日系研修制度で農学部獣医学科において、主に牛の繁殖や肉牛生産などについて研修されたわけですが、何故この分野に進んだのですか？

<ダニラさん> ブラジルで、父が8千頭の牛を飼育しており、この分野には強い関心があります。

ブラジルの牛肉生産量は現在世界一です。しかし、品質については、オーストラリアやアメリカに劣りまして、ブラジル経済の発展によって所得が向上していく事にもない、これらの国からの輸入牛肉が増えてきています。そのため日系人農家も含めて低品質な牛肉しか生産できないブラジル人の肉牛農家が困っております。ですから、ブラジル産牛肉の品質を高めていかなければなりません。そこで、牛肉の品質において高いレベルの技術を持つ日本で学び、ブラジルの畜産業に活かしたいと考えました。日本は牛肉生産がとてもユニークな国です。まず他の国には、黒毛和種牛ほど、柔らかでジューシーな牛肉はありません。また黒毛和種牛などに高品質のブランド牛がいくつもありますし、販売戦略も興味深いです。もちろん生産面での伝統も素晴らしいですし、多様な技術と知識と知恵を駆使したレベルなどは世界的に見ても非常に高いものです。

<黄教授> ブラジルの畜産と日本の畜産の方式は大規模生産と、集約型というように大きく違いますよね。

<ダニラさん> そのとおりです。日本の生産者に会って研修を受けましたが、皆さん、牛を一頭一頭大切に飼育されています。大量生産はできないけれど、質の良いものを、大切に、大切に育てています。



農林大臣賞を受賞した日本一の肥育農家である溝端さんと

### 研修中のエピソード

<黄教授> 日本の畜産研修で心に残ったことはありますか？

<ダニラさん> まず、色々な方にとっても親切にいただきました。来日のためにブラジルを離れるときに心配した家族もいましたが、安心して過ごせました。また日本の牛はとても大きいのに驚きました。ブラジルで飼育されている牛は、主に「セブ」などで、日本の牛よりも小型です。

### 研修の内容

<黄教授> このプログラムは期待どおりのものでしたか？

<ダニラさん> 正直なところ、来日前に期待していた以上に、素晴らしいものでした！

<黄教授> 褒めすぎですね。お世辞ではないですか(微笑み)。

<ダニラさん> 本当に素晴らしいものでした(微笑み)。とても勉強になり、この研修に参加できて、非常に幸せでした。

<黄教授> この研修を帰国後どのように活かされますか？

<ダニラさん> 父の農場を手伝い、ここで学んだことを活かして、ブラジル産牛肉の品質を高めることに貢献します。またブラジルの肉牛生産者協会とも密接に連絡を取り合い、協力していくつもりです。

### プログラムの周知

<黄教授> この日系研修生という制度があることをブラジルの日系人の方達にご存じですか？

<ダニラさん> JICAの方々が色々広報活動なさっていますので知っていました。

<角川准教授> 以前から日本語新聞などで広報されているようです。ただ研修生としての適齢期の方たちが日本から移民した世代ではなくなり、2世から、3世と、世代が進んでいます。それに伴い、日本語を話せる日系人が減ってきている事が気になります。

<ダニラさん> その点では、JICAブラジルの方々が、最近になって、ジャパンフェスティバルという日系人のためのイベントでも広報されています。ジャパンフェスティバルは、若い日系人にとって、とても人気のあるイベントですので、とても良いことだと思います。

<黄教授> この日系研修生という制度の目的の一つに、ブラジルと日本の友好のため両国の理解を深めることがあります。ブラジルの方に日本に来ていただいて親交を深め、日本の良さを伝えてもらう。そして、二国間の関係をより良いものに発展させることは、このプログラムの重要な目的です。ダニラさんもブラジルに戻ったら、日本での経験をコミュニティでどんどん語ってください。

<ダニラさん> はい、もちろん！日本での経験をブラジルで紹介します！

### 山口大学に求めること

<黄教授> 山口大学で学んで、困ったことはありましたか？

<ダニラさん> 言葉の問題が大きかったです。日系人は世代が進む中で日本語を話せない人が多くなっています。私も日本語はよく分かりませんでしたし、5月中旬という来日のタイミングなどが理由で、山口大学では参加可能な日本語のコースが無かったのが残念でした。私は1年間アメリカ合衆国のオハイオに留学していたので、英語は分かります。ですから、英語なら日本人ともコミュニケーションが取れます。日本人学生は恥ずかしいのか、はじめはあまり話しかけてくれませんでした。だんだんと英語で話してくれるようになり、とても嬉しく思いました。

日本語については、毎週、土曜日にボランティアの方たちに教えていただきました。とても親切で楽しかったです。

<角川准教授> ボランティアの方たちには、私も感謝しています。

<黄教授> 他にありませんか？

<ダニラさん> 学内の表示が英語でないため、どこに何があるのか分からず困りました。買い物もそうです。

<角川准教授> そうなんです。外国人にとっては、勉強や研究のための施設だけでなく、買い物や、水泳用プールやテニスコートや運動用ジム、その他の余暇施設など様々な面も含めて、より質の高い生活ができるかどうか、住む場所を選ぶ上で大切です。きめ細やかな英語の表記などのサポートが必要ですね。

## 山口で心に残ったこと

<黄教授> 山口の生活で思い出に残ったことはありますか？

<ダニラさん> 山口は自然が豊かで、日本の歴史の中でも重要な役割を果たした土地ですね。またみなさん親切で、素晴らしいところです。ここで学べて本当に幸せでした。特に角川先生の奥様にはとてもお世話になりました。

<角川准教授> ダニラさんと妻は、非常に良い友人関係になりました。また、この制度で指導教官になるならば、家族ぐるみで外国人学生を受入れる事も重要だと感じました。

## 指導教官としての感想

<黄教授> 角川先生は指導を終えられてどうお感じですか？

<角川准教授> この日系研修生制度は、研究ではなく教育のためのものです。ダニラさんの場合は幸いな事に英語が達者でしたが、他の日系人にはスペイン語かポルトガル語しか話せない人が非常に多いです。日本語を話せない外国人に対して、授業や実習、また公私にわたるいろいろな面倒を見るという事は、覚悟をしていましたがやはり大変でした。ですが、教育者としては、大変有意義な経験をすることができました。何よりダニラさんはとてもがんばって勉強していましたし、ラテン系の彼女はとても明るいので、私だけに限らず彼女と過ごした多くの人たちが幸せに思っているようです。印象深い事としては、日本人のよさを再確認できた事です。色々な所で、研修などのために協力を求めました。農家さんとか、学外の研究所とかですね。事前には、日本の農家さんにとっては、外国の農家というのはライバルになりうるから、協力をしてくれないのではないかとといった危惧も多少はしていました。でも、嬉しい誤算とでもいいますか、実際には親切に迎えていただき、また非常に細かい丁寧な、コツとか勘所という事を教えていただけました。交流を通じて、日本人の若い農家さんにも刺激になったようです。このような点も、この制度の中で教育活動をしていて感じられた嬉しいことです。ですからこの日系研修生という制度では、受け入れる大学の教官にとっては、直接的にすぐに研究の役にたつようなことは無いと思った方が良いでしょう。教育者としては非常にやりがいのある経験ができるといえます。



牛舎での作業の後に獣医学科の学生と共に

<黄教授> ダニラさん、研修お疲れさまでした。ブラジルに戻ってもがんばってください。

<ダニラさん> ありがとうございます。研修でお世話になった皆さんに、感謝しています。